

大学生協のアソシエーション性と CIEC

眞田 隆裕^{*1}

Email: takahiro.sanada.6h@stu.hosei.ac.jp

*1: 法政大学公共政策研究科連帯社会インスティテュート 修士2年

◎Key Words 大学生協 アソシエーション CIEC

1. はじめに

本稿は、昨今急速に進歩し普及し続ける AI 時代、効率性重視のタイパ・コスパと言われる時代にあつて、大学生協と CIEC の持つアソシエーション性を明らかにする。そしてコンピュータ利用教育において、両者のアソシエーション性の結合によって進んできた学生・教職員・大学生協職員による取り組みを振り返り、2026PC カンファレンスのテーマ「AI 時代における人間主体の学習と教育」について、協同組合—アソシエーション的視点から考える。

2. アソシエーションとアソシエーション性

(1) アソシエーション (Association) 結合体

アソシエーションとは社会学においては、特定の目的のために人々が自分の意志で集まった組織や集団のこととされる。単語としては、「協会」「団体」「結社」などと訳される。サッカーという言葉も「アソシエーション・フットボール」から来ている。

20 世紀の社会学者 R.M.マッキーヴァーは、社会集団をコミュニティとアソシエーションの 2 つに分類した。コミュニティ (共同社会、共同体) は、一定の地域で自然発生的な共同生活を営む集団であり、『地域コミュニティ』という言葉がその性格を良く表している。一方アソシエーションは前述のように人為的、意識的に作られた機能的集団である。区分けとしては分かりやすい分類の仕方と言えよう。

しかし現在における『コミュニティ』の日本語としての使われ方は、必ずしもマッキーヴァーの区別通りではなく多様性がある。『大学コミュニティ』『市民社会とコミュニティ』などのように必ずしも地域ではない集団に対しても用いられている。

(2) アソシエーション性について

アソシエーションとして結成された集団が、その目的を果たそうとしているか、構成メンバーがその目的のために意志を持って参加しているか、などに応じてアソシエーション性については評価されよう。

3. 大学生協について

大学生協は、キャンパスのインフラとして、食堂や購買店舗を拠点に、長く学園の福利厚生事業としての役割を果たしてきている。

その事業活動は、①食生活支援 (食堂や飲料料品の販売)、②教育・研究・学修支援 (新入生向け等 PC の提供、教科書販売、文房具等用品提供、教員・研究室の校費対応)、③キャリア形成支援 (就活支援、公務員等講座、旅行、教

習所、専門学校幹旋)、④健康で安全な生活支援 (学生総合共済、学生生活 110 番) ⑤一人暮らし・日常生活支援 (下宿紹介、受験生新入生支援) などを主要な柱として、学生・教職員の学園生活に貢献している。(全国大学生協連ホームページ 大学生協 REPORT 参照)

また大学生協は単なる学内福利厚生事業者にとどまらず、本来的には定款第 1 条 (目的) にあるように、協同互助の精神により組合員の生活向上 (文化的、経済的) を図り、出資した組合員の事業を中心とした利用、活動や運営への参加にもとづき、組合員が主権者である＝組合員の主体的参加による運営組織である。

協同による生活向上の目的のために、大学人＝学生・教職員が自ら生活協同組合を結成し、自由意志に基づき、出資・加入して組合員となり、その事業を利用し、活動や運営に参加するという、まさに 2 におけるアソシエーションとしての性格を元々は有する団体である。

4. CIEC=コンピュータ利用教育学会について

歴史的には、1993 年の東西 PC カンファレンスの開催に端を発している。1990 年代に PC が普及し、大学教育の中での活用推進の草創期でもある。大学の先生方が学生への教育へどう PC を利活用していくのが効果的か、そのもととなる考え方はどうしていけば良いのか、などを大学生協が組合員の活動として位置づけて、カンファレンス形式で全国の経験や知見の交流の場として毎年開催してきた。

そして当初は協議会組織として 1996 年に CIEC = 「コンピュータ利用教育協議会」(Council for Improvement of Education through Computers) として発足し、2013 年には一般社団法人「コンピュータ利用教育学会」(Community for Innovation of Education and learning through Computers and communication networks) となった。日本学術会議での位置づけは「教育学」である。

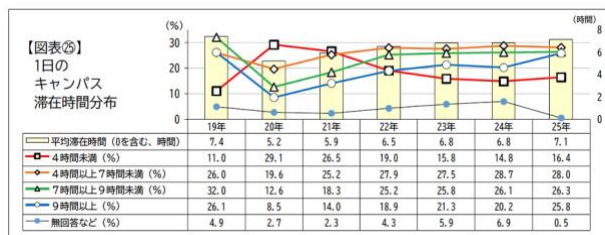
CIEC は大学生協無しには発足されていない。またその設立趣意書にもあるように会員対象には、「教育関係者、研究機関、企業及び生協の関係者」など参加対象を広く設定している。大学生協の組合員の活動として始まったこともあり、大学生協職員部会、小中高生部会など、他の学会にはないユニークな活動も盛んである。当然大学生協のない大学や小中高等学校の教職員も広く活動に参加をしている。またカンファレンスには企業参加の IT フェアも行われている。

一般的に CIEC も含めて、学会そのものが特定の研究分野の研究者による研究成果の交流や情報交換を行うため

の学術団体（知の共同体）であり、学会員の主体的参加による組織として、アソシエーション性は全体的に強い。

5. 大学生協のアソシエーション性の現在

一方 2020 年からのコロナ禍は、学生の生活様式に変容をもたらした。5 年を経て、週登校日数は若干減少（19 年 4.4 日→25 年 4.2 日）し、1 日のキャンパス滞在時間は段階的に回復（19 年 7.4 時間→25 年 7.1 時間）してはいるが、短時間滞在と長時間滞在が増加し、一定の厚みのあった中程度滞在時間が減少し、大学生活の行動様式の多様化を示している（全国大学生協連「第 61 回学生生活実態調査 概要報告」より）。



転載：全国大学生協連「第 61 回学生生活実態調査 概要報告」

図 1 1 日のキャンパス滞在時間分布

大学間格差がありつつも特に都市部の大学（特に一都三県）では、コロナ禍前に比べて利用客数の減少と営業時間の短縮に伴う供給高＝組合員利用高の減少、最低賃金制上昇や人手不足による人件費の高騰、システム開発など、収入減少と費用増加により経営困難を抱える生協も多く見られる。総代会での予算設定では、コロナ以前にはあまり考えられなかった赤字予算を議決する生協も数多くある。

大学生協のアソシエーション性を考える場合には、組合員が単なる利益の享受者ではない主権者意識（ジブンゴト意識）を持てるかが一つの評価点になるだろう。また協同組合として人と人のつながり（学生・教職員・生協職員や関係者）やそれにもとづく「あたたかさ」なども重要な面である。コロナ後の経営困難を脱するために、経営効率・経営数値のみに特化した運営に注力することは、アソシエーション性の毀損、生協らしさの疎外につながりかねない。経営困難だからこそ、生協執行部＝理事会は主権者である組合員に対して利用結集を促す呼びかけを行い、組合員の声にもとづく店づくり、学生委員会を先頭にまた組合員の代表である総代を組織して、組合員の創意工夫による活動を生協の場で実現することなどを、あわせて進めていく必要がある。事業経営と活動や運動、生協組織の三位一体的バランスをとりながらの民主的運営に注力することが、大学生協のアソシエーション性の保持であり、経営困難を乗り越える道である。そして経営困難でない生協も同様である。

具体的な活動を挙げると、コロナ期も含めて継続している新入生歓迎活動、助け合いを具現化した学生総合共済活動、組合員と生協とのコミュニケーションツールである一言カードの積極的活用、組合員がお店や食堂に注目を集めるような店舗活動（七夕飾りや商品投票など）、法政生協で何十年も継続しているオールナイトスケートなどの文化活動、平和活動など、学生委員会を中心に各大学毎の特色を活かしながら推進されている。

5 月は数多くの大学生協で総代会が開かれた。筆者も

いくつかの総代会を見学したが、総代会議案書に学生委員会活動を掲載し、学生委員が総代会でその活動を報告する生協は、活気があることが見て取れる。

「生協は組合員が主権者の組織である」と組合員や大学にきちんと広報し続けているかどうか。筆者が 5 月に日本協同組合連携機構による千葉大学寄附講座『非営利市民事業と協同組合』で発表した際に、学生からの感想や質問で、「自分事として生協を考えなければ」「単なる便利な店と捉え、、、、ライトな消費者が増えている、主権者としての当事者意識を持ってもらうには」と極めて率直な意見をいただいた。協同組合の第 5 原則「教育、訓練および広報」の重要性を物語っている。

「自分たちの生協」と思う組合員がどれだけいるかがアソシエーション性の一つの指標だが、現実的には「主権者」というよりも「ライトな消費者」意識の学生が多く、役職員・学生委員と一般組合員の意識の乖離があるのも全国的な実態である。

6. CIEC、PC カンファレンスと大学生協

全国大学生協連は、PC カンファレンスを全国的な組合員の主体的活動としても位置付けて、主催団体として支援し、その発展に応じて CIEC 結成にも尽力し、事務局機能を大学生協杉並会館内に置いて、専門的に人員を配置している。また PC カンファレンスはコロナ禍の開催を除いて、全国大学生協連の会員生協のある大学で開催し、その大学生協は事務局の一翼を担い専務理事が実行委員となり、その成功に尽力している。筆者も慶應義塾生協専務理事として SFC 開催に臨み、実行委員会での妹尾先生と若林先生のテーマ議論は良い思い出でもある。その回をきっかけに CIEC に関わった熊坂先生が会長になられた時の SFC 開催では全国大学生協連職員として事務局の任にもあたった。

大学生協の事業活動の大きな柱の一つとして、新入生向けの PC 提案がある。各生協とも自大学の教育での PC に関する情報収集を、大学関係者や利用する学生から行い、キャンパスや学部学科に見合った学生の意見に基づいた新入生向け PC の提案活動を行っている。単なる機種提案にとどまらず、学習活動での先輩学生の使用の仕方や講座、アフターケアなどの提案も含めて動画を作成して、先輩学生が新入生向けの「入学準備説明会」などの場面で、自分や周りの友人の体験を踏まえて行っている。これから進学する大学の先輩からの説明やアドバイスは、学習面と合わせて新生活に不安を抱える新入生に安心感やあたたかみをもたらすものでもある。

また大学生協職員も、「教育学」学会としての CIEC の PC カンファレンスで発表される様々な知見を、新入生をはじめ組合員への提案につながるよう、また大学生協職員部会での全国の取組交流も含めて、PC カンファレンスを学ぶ場として位置付けている。

このような PC を中心とした教育場面での、教職員と学生、大学生協職員のそれぞれの役割に応じた協力・協同の実践は、組合員の主体的意思に基づき、事業面・運動面・組織面が一体となったアソシエーション性が良く発揮されている取り組みと言えよう。

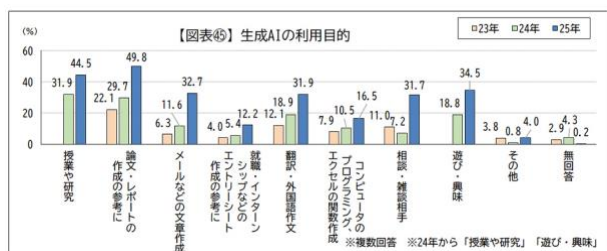
また 2002 年 12 月には大学生協東京事業連合（当時）で「店づくりプロジェクト」答申がだされたが、その中で

生協における組合員活動のこれからの形態として、「組合員の専門参加」＝学生や教職員が持つ様々な専門性を活かした活動が重要になってくることが述べられている。PC 教育という大学での専門性を組合員活動としても位置付けられる CIEC の活動も、大学生協の重要な活動として評価できよう。

振り返って 2000 年代半ばの PC カンファレンスでは、学生相互の学び合い、学生と教職員の学び合いとして「互学互修」が強く推し出されていた。大学でも教育や生活面での学生の peer to peer 支援が言われていた時期と重なっている。現在は当たり前となって強調されなくなったが、様々な場面や大学内外の人々の間での PC に関わる「互学互修」は、引き続きアソシエーション性を示す大事な観点であろう。

7. AI 時代を迎えて

ここ数年の生成 AI の進歩は凄まじい。学生の生成 AI 利用経験も大きく進展し、全国大学生協連の第 61 回「学生生活実態調査」では、23 年 46.7%・24 年 68.2%・25 年 92.2%と年々増加し、『生成 AI 利用は当たり前』の段階になっている。生成 AI 利用のガイドラインは多くの大学で示されており、生成 AI のハルシネーションについては多くの学生も認識していることだろう。



転載：全国大学生協連「第61回学生生活実態調査 概要報告」

図2 生成 AI の利用目的

学生の利用目的は、同調査の上記表（複数回答可能な項目）にあるように、勉強学習に関わる利用が多くを占める一方、遊びや相談雑談なども普通に利用されており、様々な生活のために活用されている実態が現れている。

いずれにせよ大学生が勉強学習活動に当たり前に生成 AI を利用している実態がある現実に対して、生成 AI 利用のためのリテラシー教育は大学において必須の時代である。インターネット時代が始まって、その使い方はもちろん倫理教育的なものも大学教育で重視されていた。これだけ SNS で生成 AI 作成のコンテンツが流れている今、学生が生成 AI を使うにあたっての倫理教育、それぞれの大学での利用ガイドライン（の進展）などの必要性も、生成 AI の進歩に応じて高まることが予想される。

あまり生成 AI に詳しくない筆者も大学院発表などで活用するが、良くまとめるなあと感心する場合と、ちょっとそれは違うだろうと思う場面とがある。生成 AI 活用で効率性が上がる場面もあるが、最終的には自分で手を入れる必要性を強く感じさせるものでもある。

8. 最後に

ここまで大学生協と CIEC・PC カンファレンスの持つアソシエーション性に関連して述べてきた。これまでも両者の持つアソシエーション性が結合して、学生・教職

員・大学生協職員の協力・協同で、それぞれの役割や専門性、得意分野を活かして、PC 利用教育が進んできたと感じている。

学生の利用する SNS では、「生成 AI 活用講座」「資料作成は○、動画作成は△」「この AI でこのプロンプトを使えば効果的な出力がでる」などが自動的に出てきて、また巷間「AI の発展で仕事なくなるのではないか」「AI を使いこなせないとこれからは生き残れない」などの言説も多く、これらが学生に影響を与えていることも否めない。現実的に企業の採用活動は、「AI 利用拡大で新卒採用減少 量から質へと転換する企業の採用戦略」（日経ビジネス 2026.6.9）との報道もされている。

学生のユニバーサル時代の大学教育の大きな役割が、社会人（企業人に限定されるものではない）として生きていく力を、学生の主体的学習（課外活動も含む）を通じて育むことであるならば、PC 利用教育においても、学生・教職員そして大学生協職員が主体となって、時代の変化に対応しながら、自ら学び、学び合い、教え合い、支え合うというお互いの協同組合的＝アソシエーション的な人と人とのつながり＝結合による取り組みは、大学コミュニティの中での知の共同体として、AI 時代が進展しても人間主体の学習と教育につながっていくだろう。さらに少子高齢化、18 歳人口減少に伴い、リカレント教育や社会人学生の増加により、社会人学生もつながりの輪に加わることが進むのであれば、より多様なものになるだろう。

参考文献

- (1) 全国大学生生活協同組合連合会：“第 61 回学生生活実態調査 概要報告”，ホームページ（2026）
- (2) R.M.マッキーヴァー：“コミュニティ”，P45-51，ミネルヴァ書房（1981）.
- (3) 妹尾賢一郎：“「互学互修」モデルの可能性—先端的専門職教育における「学び合い・教え合い」”，コンピュータ&エデュケーション Vol.15, P24-30, C I E C（2003）